

平成23年度第2回 森林整備加速化・林業再生協議会（議事録）

1. 日時：平成24年2月14日（火） 10:00～
2. 場所：興林会館5F会議室
3. 出席委員
  - ・北岡副委員長、嶋崎委員、井上委員、臼井委員、大野委員、楠本委員
  - ※小田委員は、欠席し、委任状を提出
  - ※戸田委員長は、風邪による欠席
  - ・議事進行は、北岡副委員長。

●委員の過半数の出席により、協議会成立

●部長あいさつ

●北岡副委員長あいさつ

●事務局説明

岩村林業環境政策課

- ・森林整備加速化・林業再生基金事業の継続について説明（資料1）

國吉森づくり推進課長 → 高橋林業改革課長 → 春山木材産業課長

- ・資料2の変更全体計画書、資料3の平成24年度事業計画書の該当部分について説明。

●議事

嶋崎委員

- ・林業専用道は、2万5千円/mの単価か。10t車が走る道を想定していると思うが、2万5千円/mで大丈夫か。
- ・また、土佐町、いの町の事業があるが、町村から発注されるのか。

高橋林業改革課長

- ・ベースは2級林道の規格では、走行車両の長さは12mであるが、高知県は10.5mのショート10tトラックを使っている事業者が多く、それが通行できる規格を整備し、2万5千円程度の道を開設したい。

嶋崎委員、臼井委員

- ・2万5千円/m程度では、道の開設は厳しい。

臼井委員

- ・森林作業道は2千円/m。3～4千円/mは掛かるのではないか。

高橋林業改革課長

- ・ 林業専用道は、林業専用道（規格相当）のことであり、林道 2 級の規定をそのまま使うということではない。若干は、簡素な規格になる。

臼井委員

- ・ 森林作業道は、3m未満の幅員だが、2 千円/mでできるのか。平均 2 千円でできているのか。
- ・ 余分に金がかかったらどうするのか。

高橋林業改革課長

- ・ 基本的に、補助事業の上限までで開設していくことになる。

事務局

- ・ 今の林野庁の通知では、個別の路線ごとに、上限事業費を超える場合であっても県全体の平均で超えていなければ、開設は認められるし、林業専用道や森林作業道の、個々の路線で事業費が嵩む理由等については、この協議会の下に、部会を設けて、協議をすることになっている。

楠本委員（?）

- ・ 高知県は、林業機械は多いと理解しているが、導入を支援するのか。補助率はどうか。

春山木材産業課長

- ・ 間伐材利用量の目標値に応じた助成になっている。例えば、高知林業の場合は 1 万 m<sup>3</sup> の目標値なので 20,000 千円まで助成できる。
- ・ 産業振興計画では、原木の増産に取り組むこととなっており、林業機械の導入は必要。現有の機械もフル稼働すればよいが、それを補うところでの導入が必要。

北岡副委員長（?）

- ・ 平成 24 年度事業からの残りは、どうするのか。

田村部長

- ・ 平成 25 年度、26 年度でやる。

井上委員

- ・ 増産の支援はやらないのか

田村部長

- ・ 加速化基金事業以外に、他の県単独事業も含めて支援することを予定している。

井上委員

- ・ 住友大阪セメントの話だが、予算が切れたということで、買い取り制度がダメになった。枝条を集めるのに補助金が下りない。枝条を収集するための専門のトラックを構えているし、ダメはおかし

いので検討した方がよい。

#### 春山木材産業課長

- ・ 加速化の予算はなくなったが、固定価格買取制度でバイオマスを利用した発電制度ができるので、買取価格が高くなれば、林地残材も高く買い取る仕組みができあがる。そのあたりで、進むと考える。

#### 井上委員

- ・ 住友フォレストサービスは自力で集めるといっていた。それもいいが、5千トンから6千トン供給しているものが、ゼロになってはいけない。何とか、2千万円程度でできればと思う。
- ・ 買取価格がうまく行かない場合でも、大した金額ではない。
- ・ 高性能林業機械も何台か希望があるが、60万m<sup>3</sup>増産なら、500台はないときつい。

#### 田村部長

- ・ 林業機械が不足している事業者もいるので、県単ではレンタルを含めて対応する。
- ・ 林地残材の話は、固定価格買取制度の影響が大きい。新たにバイオマス発電を行う事業者は対象だが、既存の事業者は対象にならないとか、なるという話がある。
- ・ 固定価格買取制度なら、運賃コストも吸収できる。森の工場からの搬出であれば、一定は補助できる。
- ・ 事業計画にあるように新たなバイオマス発電の計画もいくつかあるので、期待していただきたい。
- ・ 買取価格の委員会について、当初は2月といていたが、委員会の人選でもめている。
- ・ 発電事業者の事業計画が立たないので、3月～4月には決めていただきたいと考えている。

#### 臼井委員（？）

- ・ 東日本大震災の復興支援という大義名分があるが、それに合致した供給体制や輸送体制があるか。

#### 田村部長

- ・ 県単独事業で流通拠点を活用するための補助金があるが、特に復興のためということではない。秘本全体で、製材品が増産されていけば、結果として東北に回るということになる。

#### 楠本委員

- ・ 大豊町の銘建工業の絡みの大型工場では、当初5万m<sup>3</sup>、3年後には10万m<sup>3</sup>の原木消費量となるが、県下の中小製材業に影響する項目や視点、対策はあるか。

#### 春山木材産業課長

- ・ 県内事業者には原木供給への不安がある。高知おおとよ製材への供給は、これまでの40万m<sup>3</sup>に上乘せする形で、規格外を含めて20万m<sup>3</sup>の増産をする。
- ・ 増産支援策としては、再生林への手厚い支援を予定している。
- ・ また、既存の製材事業者が廃業されることも多い。零細な事業者が多いので、国の事業が使えるればそれを使うが、使えない小規模事業者についても、来年度から3年間、県単独事業で施設整備を支

援する。モルダーや乾燥機などの整備を支援し、高品質化をはかり、競争力をつけていただく。

#### 大野委員

- ・ 暁産業のオガ粉ボイラーへの助成があるが、まだ、開発段階だと思っている。そうした製品が普及する見通しは大丈夫か。

#### 春山木材産業課長

- ・ オガ粉ボイラーの完成型ができていないので、そういったものについては、今後も調整をしながらやっていきたい。オガ粉は良いが、装置がうまくできるかが鍵。

#### 井上委員

- ・ 暁産業から、木を集めてほしいという話 coming ているが、急にボロい木を 5,000m<sup>3</sup> 必要と言われても難しいと応えている。
- ・ 銘建工業の工場に参加して、積極的に木を切って活用することは賛成であり、全力を挙げて原木を増産するが、どうやって取り組むかを県の方でも考えて、予算は大盤振る舞いをしていただきたい。民間は利益が伴わないとやらない。

#### 田村部長

- ・ 素生連の会長さんからも話をいただいている。

#### 臼井委員

- ・ 加速化では、搬出間伐に対する補助率が 65% で、造林補助金と比較して何のメリットがあるか。国がやれということか。

#### 高橋林業改革課長

- ・ 造林事業のように、1 申請当たり 5ha という縛りがない。0.1ha 以上であれば、助成できるというメリットがある。

#### 臼井委員

- ・ 間伐の事業費枠はあるか

#### 高橋林業改革課長

- ・ 特に縛りはない。

#### 北岡副委員長

- ・ 今日の話の中では、路網の単価の件が心に残っているが、良いか。検討するよう意見として付議する。その他に意見はないか。

#### 【特になし】

※事務連絡を伝達後、閉会。